

UIFA JAPON D'AUJOURD'HUI

今日の話 各地会員からのメッセージ

■CONTENTS

- TOPICS 第3回海外交流の会 Dr. モリーニのプロフィール
MESSAGE 第2回海外交流の会 参加者からのメッセージ
今日の話 各地会員からのメッセージ

■TOPICS - 第3回海外交流の会

すでにお知らせ済みの第3回海外交流の会の講師であるイタリア建築研究所ローマ分室長 Dr. モリーニ氏は、建築物の情報化や住宅の高齢化対応などのプロジェクトにソフト分野の研究で貢献している方です。この分野での情報量の少ないイタリアの近況と女性技術者たちの活躍ぶりもあわせてお話下さいます。会員以外の方々もお誘いの上、多くの参加をお待ちします。

■MESSAGE - 第2回海外交流の会に参加して

<漆美の再見>

輪島塗りの碗の布着せの妙を見学して以来、漆塗りは日本独特の伝統文化と思い込んでいた浅学な知識を先ず反省させられた。昨年末の第2回海外交流の会での熱気に溢れた韓国の漆芸作家全龍福氏による漆の話やスライドとシンポジウム。その後、氏が1988年から5年に及びリニューアルを完成させた目黒雅叙園に移動し大小5千点の漆芸品を隅々まで見学、同美術館で同時開催されていたうるし礼讃展まで、氏の説明付きで見学でき、短時間ながら盛り沢山の密な内容だった。

漆は生活文化から工芸美術への道を辿るが、基本的魅力に①天然素材の耐久性、②塗りと磨きを重ね次第に輝きを増すその美、③湿気を調節する健康への効用が潜み、そこに蒔絵、象嵌、螺鈿等の技法と融合させ、力強い創造の世界を建築物の中に構築させていた。氏と彼を支える家族のエネルギーと生きざまに異文化を感じると共に、日本人にリニューアルが果たし得るだろうかという疑問符が心をよぎったのも確かだった。

東京都 正宗量子一級建築士事務所 正宗量子

<タイムスリップの世界>

漆と聞いてまず思い浮かぶのは“高価”であること身近にある物ではお碗や硯箱ぐらい。坪単価と常に戦っている住宅設計においても、床の間でやっと登場するだけ。英語で漆をJAPAN と言うにもかかわらず、今や漆は我々の生活の中では特別な存在になってしまっている中で目黒雅叙園の漆工芸はまさにタイムスリップした世界。“百聞は一見にしかず”、その復元・再生・新規制作を担当された全龍福先生の講演、館内見学というUIFA会員の特典により、これ迄のガラス越しの漆工芸に更に一步近づけたのではないだろうか

コスト面の問題、全工程手作業ということもあってその用途は商業空間や美術工芸に限られがちな漆ではあるが、群を抜く耐用年数とプラスチックとかかわらぬ管理の簡素さを生かして、住居空間にもなんとか浸透活用させたいものである。

東京都 田建築研究所 緑川浩子

<使うほどに増す美しさ>

目黒雅叙園での華麗でスケールの大きい、美術品としての漆を見学する機会に恵まれた。この漆の修復や新規制作を手掛けた韓国の全龍福氏が、一言ずつ選んだ日本語で語る漆の魅力、全て人間の手作業で作られ、使うほどに増す美しさ、その温かさが伝わってきた。パネラーの先生方による様々な観点からの漆の話も興味深いものであった。このように盛り沢山の企画に参加し終えて、これから私の中で建築的にも、もっと身近な所でも漆と関わる第一歩にすることができたと思う。

東京都 鹿島建設株式会社 長塚直美子



■広報だより

国際交流プログラムも軌道にのり、多数の会員の参加を得て活動の範囲も広まりつつあります。

UIFA JAPONの国際的視野での活動を通じて現在の厳しい環境の中で女性技術者たちを元気づけ、明日への挑戦へのきっかけを作る原動力になりたいと願っています。

これからの私たち女性技術者を取り巻く環境づくりは自身の手で変革する気が必要だと思われま。

世界に翔くUIFA JAPONへの若い方々の参加をお待ちしています。

Union Internationale des Femmes Architectes Japon

UIFA JAPON 事務局

〒105 東京都港区芝公園3-1-8

芝公園アネックスビル(株)生活構造研究所内

TEL 03-3459-0221

■私の仕事

相山女学園大学の生活環境学科の教授として住宅建築デザイン論、新しいまちづくりと景観形成を教え、アトリエでは住宅、医療施設の増改築等の仕事、「住み慣れた地域で自立を支える住まい」をテーマに素材、設備、金具等のきめ細かいディテールを考えデザイン・設計をする他、審議会、講演、シンポジウム、コンペの審査、有職婦人名古屋クラブ会長等自治体の仕事を通じ他分野の方と交流を通し視野を広げている。

ここでは、この中で特徴のある委員会をご紹介します。「女性からみたまちづくり事業」名古屋市では、女性のまちに対する視点を施策に反映させる為に、12人の建築家・研究者・作曲家等の専門家で「まちづくり研究会」を発足させると共に、市の各局の女性職員25人と「まちづくりスタッフ」100人を市民から募集し、各々の視点で道路やまちなみ、公共施設等を視察し魅力的な名古屋を創る為のアイデアを出し合う。委員には東京や京都、外国の方も入り、外から見た印象、問題点などを指摘していただき、私はその東ね役でソフト、ハード両面から総合的に点検し、魅力あるまちづくりの提言にしたいと考えている。17日にはヘリコプターで空からの視察をする。

これからは、私達女性の建築家が公共施設やまちづくりにどんどん参加して、計画の中で生活者視点の感性を大切にしていかなければ住み良いまちにすることができないと思う。

今年も教育、調査、研究、計画、設計と欲張って頑張りたいと思っている。



〔家族は主人と姑（93才、入院中）、子供男3人（下宿生活）犬〕

名古屋市建築計画連合 柳沢佐和子

■ある住宅設計のてんまつ記

「設計事務所に頼むといいものが出来るんですってね。」と友人から住宅設計の依頼を受けた。土地探しから始まってたびたび打合せをし、やや我が儘な施主と思われたが設計は順調に進んだ。いよいよ図面完了間近業者選びの時期となり、入札に施主推薦の業者も参加することになった時の出来事である。何をどう勘違い(?)したのか施主は数社の工務店に声を掛け、あちこちの現場を見て歩き、突然自分の家は自分で選んだ工務店で自分の思うように工事をさせたいから、設計事務所との関係は設計までとし、監理はいらないと結論を出したのである。建築家による不信感を持っているのか数社の工務店は、自分の所に任せればそのプランで総繪づくりの家をお安く建てますと、施主にとってはおいしい言葉(?)を羅列し、何と施主はその工務店を信じきってしまったのである。どんな過程を経てその結論を出したか知る由もないが、施主は完成図面も見ないうちに結論を出してしまった。

設計という仕事を始めて以来、常に施主との信頼関係を保ちながら設計監理を進めてきた私にとって、今まで如何に恵まれていたか再認識する結果となった。

私は他人の家を設計する際、自分の生き方を押しつけるつもりはないが、信念に基づいてこだわりをもって設計しているので、言葉もなくした事件であった。施主が自分の望む住宅を手に入れる際、今日でもまだまだ設計事務所に設計を依頼することが特殊解であると思っている人々が多いという事は寂しいことである。



東京都 三宿工房 富士川素子